

心に火を灯す計画訪問

学校支援課では、昨年度実施できなかった計画訪問を5月からスタートさせました。

今年度は、全市の約半数の学校園への計画訪問を実施します。当該学校園では、GIGAスクール構想におけるタブレット端末の活用方法を模索しながら、訪問要項や学習指導案等の準備を確実に進め、子どもの心に火を灯す、質の高い授業づくりが行われています。各校の先生方の日頃からの積極的なタブレット端末の利活用に感謝申し上げます。



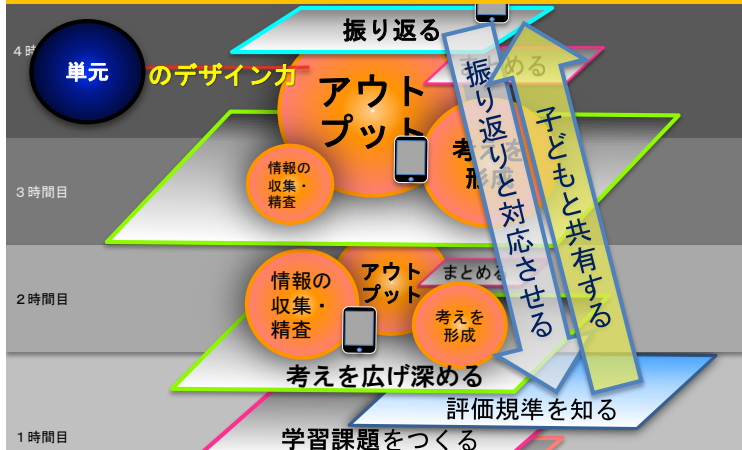
授業後には、分科会を開催し、新潟市の授業づくりに照らし合わせて、公開された授業について子どもの目線から協議しています。学びのある、先生方の心にも火を灯せるような分科会になるよう支援をしていきます。



分科会では、次のような授業づくりのポイントが協議されています。

① 単元をデザインする

指導と評価の一体化による授業改革



振り返りの質の向上による資質・能力の育成

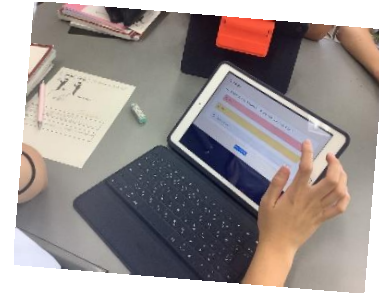
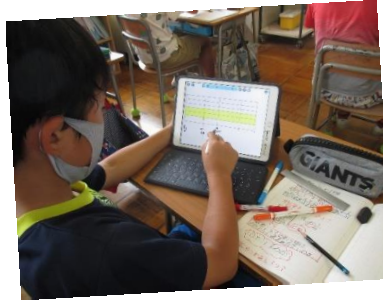


子どもが単元のゴールの姿を理解し、何ができるようになるのかを自覚する必要があります。子どもにどのような力を身に付けさせるか、そのためには1時間の授業だけではなく、単元末のゴールから、逆向き設計での授業と授業とのつながりを、子ども目線で構成する必要があります。



② ICTを活用する

「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実現するためには、自分の気付きから考えや意見を構築し、それらを表出（アウトプット）したり、友達の考えと比較したりしながら、思考・判断・表現することが重要です。また、考えや意見をアウトプットするための、子どもの興味・関心を引き出す学習課題を設定することや子どもがかかわる必然性を生むことも大切です。



③ アウトプットの重視

子どもが、授業のねらいを達成するためのICT（タブレット端末など）の有効な活用方法を全体で共有することが大切です。意見の交流や比較検討・類型化、知識の共有、作図、動画撮影、スロー再生など活用の方法はさまざまありますが、学習者がタブレット端末を使用することが目的ではなく、課題を解決したり目標を達成したりするための有効な手段としての活用が求められます。



④ 学びを振り返る

子どもが自分の気付きや学びを整理し、次の学習へつなげる振り返りが求められます。

「今度は、〇〇について勉強してみたいな」

「それならば、ほかの形だったらどうなるのかな」

「今日、勉強したことは、ほかの場面にも当てはまるのだろうか」

「家でもやってみよう！」

子どもが自らの学びを自覚し、意欲をもって学びを継続していけるようにすることが大切です。

